

三陸復興国立公園の指定案の概要

1. 背景

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による大規模な地震・津波・地盤沈下は多くの人々の生命や財産に被害をもたらすとともに、自然環境にも大きな影響を与えました。これを受けて、環境省は東日本大震災からの復興に貢献するため、平成 24 年 5 月に三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョンを公表しました。

三陸復興国立公園は、三陸地域の自然の風景地を、最新の科学的知見も考慮してとらえ直し、陸中海岸国立公園など傑出した自然風景を有する地域を中核として、自然公園を段階的に再編成し、復興に貢献する観点から、これまでも増して、地域と連携して適切な利用を推進して地域振興に貢献するものです。

今回、自然公園の再編成の第一段階として、青森県の種差海岸階上岳県立自然公園等を陸中海岸国立公園に編入し、これらを三陸復興国立公園として指定するものです。

2. 指定理由・公園計画の基本方針等

- 三陸復興国立公園の区域は、北上山地が太平洋に接し、地形の形成史及び地質の観点から一体的な地域で、海岸地形は岩手県宮古市以北の海食崖と段丘面からなる海成段丘と岩手県宮古市以南のリアス海岸に分けられ、豪壮かつ優美な自然海岸の景観が傑出しているため、国立公園としての資質を有するものです。
- 三陸復興国立公園は、次の風景型式、景観要素、テーマを持つ国立公園として指定します。

風景型式 : わが国最大級の海食崖とリアス海岸が連続した傑出した自然海岸

主な景観要素 : 海食崖、リアス海岸、砂浜海岸とマツ林、海岸植生、古い年代の地質と化石、海鳥の繁殖地、津波の痕跡、文化景観等

テーマ : 自然の恵みと脅威、人と自然との共生により育まれてきた暮らしと文化が感じられる国立公園

- 公園計画については、豪壮かつ優美な自然海岸の風致景観の保全を図り、適正な利用を推進するため保護規制計画及び利用施設計画を設定します。また、これまでの利用形態に加えて、漁業体験をはじめとした農林水産業と連携した利用、船により海域から海岸景観を鑑賞する利用、食や体験を通じて三陸地域の自然・文化を感じることでできる利用、自然の脅威を学ぶことができる利用等を進めます。

3. 公園区域

- 種差海岸階上岳県立自然公園の区域（青森県八戸市及び階上町）を国立公園に編入します。
- 種差海岸階上岳県立自然公園に隣接する、次の 2 箇所についても、国立公園と一体的に風致の維持を図るとともに、適正な利用を推進する観点から、新たに国立公園の区域に編入します。

- 八戸シーガルビューホテル、鮫角灯台及びこれらの周辺地域（八戸市鮫町）
- 種差芝生地に面した種差噴水公園及び周辺地域（八戸市鮫町）

- 既存の陸中海岸国立公園の区域は変更しません。

3. 保護規制計画

- 復興に貢献し、迅速に再編成する観点から、既存の陸中海岸国立公園の地種区分は変更しません。また、種差海岸階上岳県立自然公園であった区域においては、県立自然公園の地種区分を踏襲します。
- 新たに国立公園に編入する2箇所については、第2種特別地域とします。

4. 利用施設計画

(1) 集団施設地区

- 種差芝生地周辺に「種差海岸集団施設地区」を計画し、東日本大震災からの復興への貢献を踏まえた計画目標及び整備方針を計画します。（八戸市鮫角）
- 宮古姉ヶ崎（岩手県宮古市）、浄土ヶ浜（岩手県宮古市）、碁石海岸（岩手県大船渡市）、気仙沼大島（宮城県気仙沼市）の各集団施設地区においては、東日本大震災からの復興への貢献を踏まえた計画目標、整備方針に変更します。

(2) 単独施設

- 青森県八戸市において、園地（4箇所）、宿舎（1箇所）を、青森県階上町において、園地（4箇所）、野営場（1箇所）を計画します。
- 岩手県大船渡市に計画され、未執行だった園地（1箇所）、宿舎（1箇所）、舟遊場（1箇所）、水族館（1箇所）については、東日本大震災の影響により今後の整備を見込むことができなくなったため、削除します。

(2) 道路

- 青森県八戸市及び階上町において、車道（各1路線ずつ）を計画します。
- 青森県八戸市から階上町にかけて、東北太平洋岸自然歩道線を計画し、南北に繋ぎ交流を深める道（東北海岸トレイル）として整備します。

(3) 運輸施設

- 岩手県田野畑村及び大船渡市において、船舶運送施設（各1路線ずつ）を計画します。